

教育だより

平成22年度教育行政重点施策

三芳教育の目標

三芳町教育委員会は、人権尊重の精神を基調とし、三芳町民憲章に則し、
 ■未来を切り拓き社会の変化に主体的に対応できる知性を高め、心身ともに健康で感性豊かな心と創造性をはぐくみ、志をもったたくましい人間を育成します。
 ■すべての町民が、みどり豊かな「ふるさと三芳」に誇りと愛着を持ち、豊かな人生を送るために生涯にわたって主体的に学び、その成果を活かすことのできる活力ある地域社会をつくり出します。



授業風景

とし、目標達成のため、諸施策を総合的に展開し、「三芳教育」の実現を図ります。
 問い合わせ
 教育総務課
 (内線535)

今日、国際化・情報化、少子高齢化や核家族化、地球環境問題など、社会が大きく変化しています。また、人間関係の希薄化、家庭や地域の教育力の低下、そして、子どもたちの学力や体力、コミュニケーション能力、規範意識の低下などの喫緊の課題が多くあり、今後、さらに様々な激しい社会の変化が予想されま



図書館司書によるブックトーク授業

法の「生きる力」という理念のもとに、小中学校一貫教育等の取り組みを進めるなど「確かな学力」「豊かな人間性」「豊かな心身体」の調和のとれた教育が必要とす。
 ◆また、全ての町民が、豊かな人生を築くために生涯を通じてあらゆる場で主体的に学び続けるとともに「ふれあい、学びあい、支えあい」の多様な学習活動に取り組み、みどり豊かな自然や伝統文化そして、ふるさと三芳に誇りと愛着を持ち、住民参加と協働による活力あるまちづくりを推進することが重要です。
 こうした認識に立ち、今後

も、三芳町教育委員会は、国や県の取り組みや提言、生きる力と絆の埼玉教育プラン等を踏まえるとともに、三芳町第4次総合振興計画「豊かな生涯学習をはぐくむまちづくり」の基本計画3にそって、「豊かな知性と感性をはぐくむ三芳教育」の実現を目指し、次のような目標を立て、教育行政の推進に積極的に取り組んでまいります。



AETによる外国語授業

1 めくもりのある豊かな地域社会の実現
 高度情報化、国際化、少子・高齢化などの変化の激しい社会のなかで、豊かでゆとりのある地域社会の構築を目指します。町民の多様化・高度化する学習意欲に対応できるよう、学習機会の提供や学習内容・学習方法の改善充実、さらに、学校・家庭や地域、大学、企業等との連携を図り、協働によるまちづくりを積極的に推進します。
 ◆社会教育の充実
 ◆青少年教育の充実

◆公民館の運営改善と充実
 ◆町立図書館サービスの充実
 ◆資料館活動の推進と充実
 2 実と教育環境の整備・充実
 校長のリーダーシップの下に、学校の組織力の強化を図り、経営力や教育力を高めるとともに、教育への情熱・使命感、専門的な指導力、豊かな人間性を備えた教職員の育成に努めます。また、小・中学校間の9年間の連続性を重視し、小・中学校一貫教育の導入に向けた取り組みを推進していきます。さらに、家庭や地域の人々、企業や大学等との連携を深め、信頼される質の高い教育の推進に努めます。また、教育環境の整備・充実や地域人材の活用を積極的に進め、地域に根ざした特色ある学校づくりを推進します。
 ◆地域に開かれた特色ある学校づくり

◆小・中学校一貫教育の推進
 ◆教職員の資質・能力の向上
 ◆学校環境・教育施設の整備・充実

3 確かな学力と自立する力をはぐくむ教育活動の充実

新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、確かな学力と自立する力をはぐくむために、児童生徒一人ひとりに基礎・基本を徹底し、思考力・判断力・表現力の育成を目指して、創意ある教育課程を編成し、体験活動や言語活動の充実等指導方法の工夫・改善に努めます。また、児童生徒が確実に



ボランティアグループ「ジュボラ」の活動

子どもから高齢者に至るすべての町民の生涯にわたる様々な教育活動を通して、人権尊重の意識を高めるよう努めます。また、児童生徒の人間性や社会性をはぐくむため、学校教育活動、社会体験活動などを通して「命を大切にする心の教育」の充実に努めます。さらに、

4 人権を尊重し豊かな心をはぐくむ教育の推進

に身に付ける、教育に関する3つの達成目標「学力」「規律ある態度」「体力」に取り組み、「知・徳・体」の調和のとれた特色ある教育活動を一層推進し、生きる力の育成を図ります。
 ◆確かな学力をはぐくむ学習過程・指導方法の工夫・改善
 ◆国際性をはぐくむ教育の充実
 ◆特別支援教育の充実
 ◆進路指導・キャリア教育の充実



みよしまつり

生徒指導・教育相談体制の充実を図り、いじめ・不登校などの問題に積極的に取り組みます。
 ◆人権を尊重する教育の推進
 ◆地域社会における人権教育の推進
 ◆豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実
 ◆ボランティア・福祉教育の充実
 ◆生徒指導の取り組みの充実
 ◆教育相談活動の充実

5 家庭・地域の教育力の向上

学校・家庭・地域社会がそれぞれ教育力を生かし、連携・協力しながら基本的な生活習慣や正義感、規範意識や他人を思いやる心などを持つた児童生徒の育成を図るため、家庭教育や地域活動の支援に努めます。また、青少年の健全育成を図るために町民一人ひとりの関心を高め、地域や関係機関等との連携を図り、



町民体育祭

◆学校体育・健康安全教育の推進
 ◆学校給食の充実

6 文化財保護と郷土学習活動の推進

先人たちの築きあげてきた歴史や文化を伝える文化財を調査し、保存することは、町の歴史や文化を知るためだけでなく、町の将来の姿を描くためにも大切なことです。大切な文化財を調査し、正しく

7 健やかな体をはぐくむ健康教育の推進

学校の教育活動全体を通して、子どもの健康の保持増進体力づくりなどの推進に努めます。また、学校におけるスポーツ活動の活性化はもとより、子どもがスポーツ・レクリエーションに親しめる機会をつくり、健康で明るく活力に満ちたスポーツ・文化活動を推進します。

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



4月の予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

〈中央図書館〉
★えほんワールド
日程：4月18日(日)、場所：中央図書館
※詳細は右ページをご覧ください。ご家族そろってのご参加をお待ちしています。

■くりくらのタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
第1・3金曜日 (保護者同伴)
11:00～11:15 6ヶ月～1歳
11:20～11:40 2・3歳～
第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳

◆おはなしサークルかにかにこそぞ
10:00～12:00 おとな対象
※言葉を覚えて語る練習をしています。
♥としょかん・くらぶ一会員制一
(読み聞かせとブックトークで本に親しむ会)
10:00～11:00 1・2年生
11:10～12:00 3～6年生

〈竹間沢分館〉
■くりくらのタイム (絵本・紙芝居・手遊び等)
第4火曜日 11:00～11:30 1～4歳
◆スイミーおはなし会
(絵本・紙芝居・ブックトーク)
第4木曜日 16:00～16:30 4歳～小学生



【一般書】「はじめての花木・庭木―剪定と管理のツボがすくにわかる―最新版」
船越亮一監修 主婦の友社編
主婦の友社 2009年2月発行
請求記号 627.7ハジ



【一般書】「タリヤの庭へ」
タリヤテテウタ書
リチャードW.ブラウン写真 食野雅子訳
メチアファクトリー 2009年9月発行
請求記号 L620.2ユ
五十年代から始めた自給自足の一人暮らしで季節の花々を育て続け、そのライフスタイルが日本でも注目されたタリヤ。彼女の35年間の庭づくしの経緯とノウハウを、美しい写真で紹介。



【児童書】「はぐの庭ができた」
ゲルダ・ミューラー作
ささきたつこ訳
文化出版局 1989年9月発行
請求記号 Eほ



【児童書】「A・B・Book(s) 1」
本多明著
小峰書店 2007年7月発行
請求記号 児童913ホ
かつては庭を愛する曾祖父が手入れしていたが、今では荒れ放題の広い庭。それをたたく2日間で整え、これと切り切羽詰まった注文を引き受けたのは、若い植木職人だ。さて、その腕前は…

新しい家に超してきたベンジャミンたち一家が、荒れ果てた庭をよみがえらせる年間を追うフランス生まれの絵本。庭の設計から始まり、土づくり、種まきと庭づくしの基本も学べる。

「子ども読書の日」関連事業
としょかん えほんワールド

図書館では、毎年「子ども読書の日」(4月23日)にいちばん近い日曜日に、家族そろって絵本を楽しむ「えほんワールド」を開催しています。
問い合わせ 中央図書館 ☎258-6464
【日程】4月18日(日) 【場所】中央図書館

午前の部 えほんやおはなしをたっぷり楽しめよう♪

時間	内容	対象
10:30～10:55	えほんの部屋	1～3歳向き
11:00～11:15	自転車紙芝居 (図書館前広場)	
11:20～12:00	えほんの部屋	4歳～小学生向き
12:00～12:20	自転車紙芝居 (図書館前広場)	

午後の部 おとなだけの参加も大歓迎!
＜影絵映画＞
「藤城清治 つるの恩がえし・泣いた赤鬼」
●上映時間 13:00～13:50
14:10～15:00
●場所 中央図書館2階視聴覚室
お子さんからおとなの方まで、楽しめる内容です!



「だてだてのおばあさん」
さく・え 佐野洋子
フレーベル館



「たまごのあかちゃん」
かんざわとしこ・ぶん
やぎゆうげんいちろう・え
福音館書店



▲自転車紙芝居の様子

教育トピックス

海外で活躍する先輩からのメッセージ

ある日、町長宛に1通のメールが届きました。
「私は、現在、ニューヨークで仕事をしています。今自分があるのは、三芳町で過ごした小中学校時代の経験がきっかけで海外に目が向くようになったおかげです。三芳町出身の子もたちが、一人で多く世界で活躍することができるように、現在に至るまでの自分の経験を何らかの形で役立てることはできませんか。」という内容でした。
その方の実家は三芳町にあります。上宮小学校、三芳中学校を経て、高校は青森県、大学はアメリカ。そして現在、ニューヨークで「建築デザイン」関係のお仕事をなさっています。その後、一時帰国した折りに教育委員会を訪ねてくださいましたので、お話を伺うことができました。以下はそのときのお話の内容です。
Q、海外に目を向けるきっかけは何でしたか。
A、私が小学生の時、オーストラリアの親善訪問団の子どもを自宅に受け入れたことがありました。そのときに初めて、外国の「風」というものが家の中に入ってきたのです。言葉は通じなくても、子ども同士すぐに打ち解けて遊ぶことができました。それは学校で英語を学ぶことはまた違った経験でした。その経験によって、異文化と交流することに對する免疫がいたことがきっかけだと思っています。その後、中学校時代に海外派遣でオーストラリアに行き、異文化に触れると同時に、
ある日、町長宛に1通のメールが届きました。片言ながら英語が通じたことが嬉しかったという経験もきっかけと言います。
Q、アメリカでお仕事をされる上での苦労はどんなことですか。
A、英語でコミュニケーションをとらなければならないこと。英語の読み書きはそこそこできますが、話すことができませんでした。英語が話せないと自分の存在価値をアピールすることすらできません。また、アメリカという社会の中で仕事をするために英語によるコミュニケーション能力を欠くことができません。コミュニケーション能力が高いかどうかということは、異文化にいち早く溶け込むことができるかどうかということだと思います。
Q、最後に三芳町の子どもたちにメッセージをお願いします。
A、何がきっかけになるかは十人十色様々な経験やたくさんあって、その中から自分の将来につながるものを見つけてください。待つというのは駄目です。自分から働きかけ、周りに目を向けることによってチャンスをつかみ取ってください。国際化の時代です。選取肢の一つとして海外に目を向けて見るのもいいでしょう。たまたま、私のいるアメリカは世界につながっています。世界の中心で仕事ができるということに喜びを感じると同時に、誇りも思っています。皆さんの今後の活躍に期待しています。



技の文化財

第1回 屋根葺き

かつて三芳では、多くの人が長く農業を中心とした生活を続けており、農業以外の職業に就く人は少数でした。農業以外の仕事には、専業主婦の職人仕事や農閑期に行う賃稼ぎの仕事があります。今月から、こうした仕事に携わった人々との様子について紹介していきたいと思います。
昭和30年代後半、高度経済成長期を迎えた日本の生活環境は大きく変化しました。それは三芳にも生活の便利さをもたらしましたが、一方では長く培われた生活文化や様式を大きく変化させました。草葺屋根もその一つ。かつて三芳の住宅の多くは、茅(ススキ)やオギ・スゲ、や藁によって葺かれていました。
こうした屋根は永久にもつものではなく、茅葺の場合は1世代に1回およそ30～40年、藁葺では3～5年に一度の葺き替えが必要でした。もともともと一度に替えるのは大変なので、傷んだ部分を取り除いて新しい材料を足す「サシガヤ」をして屋根を維持していました。草葺の当時、茅だけを使用する家はほとんどなく、経済的に豊かな家では藁を混ぜて使いました。こうした屋根葺き仕事を農閑期に行う「屋根屋」は、かつてどの村にも2～3人いました。屋



平成19年度から20年度にかけて行われた旧島田家住宅の「サシガヤ」の様子